

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー一部報第 11 号 (7 月 2 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2B鶴南戦3対3の打ち合い分け

6 月 28 日 (土) Y2B 第 6 節鶴岡南戦が酒田市飯森山 G (国体記念 G) で行われました。**鶴南は、つい先日 (約 1 か月前) 県総体にて山東が敗れた相手。**そして、ピッチは県総体同様に天然芝。県総体の行われた天童と飯森山とでは、同じ天然芝でも環境が全く異なりますが、何か因縁を感じてしまう¹。飯森山は、カオルの代 (コウタの代の 6 つ上) の県総体にて、準決勝・三決を戦った場所として思い出深い。先週、各県の県総体上位校が集まった東北選手権が開かれた場所でもあり、こんな素晴らしい環境で試合ができるのは率直にうれしい。私は選手時代、(今と比べ滅多にできませんでしたが) 天然芝でプレーすると調子が良かった思い出があり、会場に到着すると 6 年前の記憶も相まって勝手にテンションが上がる。

さて、対戦相手の鶴南。**鶴南は県総体二回戦で新庄東に惜しくも 2 対 3 で敗れ、3 年生のほとんどが引退。今回スタメンに 3 年生 FW が 1 人名前を連ねていますが、実質的に新人チーム**と言っている。ゆえに選手はどう思っていたかは知りませんが、監督としては、この試合に県総体のリベンジという意味合いを感じてはおりませんでした。ただ、「新人チーム相手に負けたくない」という思いは強かった。油断したか県総体 3 位の山形商業が前節にその鶴南新人チームに敗れたこともあり、緊張感を持って試合に臨みました。**スタメンは、3 年生 GK ケッツ²の故障により 2 年生 GK サフローが初先発するなど、7 人が 1・2 年生 (1 年 2 人、2 年 5 人)。**県総体では先発 6 人が 3 年生でしたから、今回 3 年生の先発選手が 4 人とは山東も主力が新人チームに移った、とも表現できますが、やはり**攻守にわたり主力は 3 年生。**鶴南の新人チームには「亀の甲より年の功」を見せつけたい。

遠方ながら、清野 OB 会長、後藤報道局長がいらっしゃる。多くの保護者と佐竹校長もいらっしゃり、庄内の鶴南の応援席よりも賑やか (数だけでなく絶叫の大きさでも!)。そんなありがたい応援を受け、12:00 キックオフ。

¹ 県総体が今期山東にとって天然芝初戦だったため、「天然芝大丈夫かな〜、人工芝なら明正 G のおかげで何度もやってるんだけどな〜」と (試合前に) 不安に思ったのですが、今回も、「天然芝か〜、大丈夫かな」と思ったということ。天然か人工かを問わず、芝でばかり練習・試合をしているチームがクレーコート (土の G) を心配するのは、まああることです。やはり、クレーはイレギュラーが多いし、硬さによっては余計に弾むので。スライディングもしづらいし。そう考えると、土でばかり練習している山東が天然芝に気を取られるのは、本当は意味のないことですが……。

² 1・2 年生保護者の皆様のために念のためあだ名の由来を説明しておきますと、オオノは入部当初故障が多く、特に大殿筋 (ケツ筋) の故障があったものですから、「ケツ ⇒ ケッツン」という変化により、そのようなあだ名が定着しました。定着と言っても、使用しているのは私しかいませんが……。

試合が始まると、鶴南に何となく押される。山東の競り合い・クリアの長さが中途半端で、鶴南が持ち味のパスワークを見せているとは言えない形でも押し込まれる。**山東が相変わらずの緩い入りを見せた、というより、ヘディングにしろキックにしろ、しっかり大きく飛ばす技術の不足と、苦しいボールを前線が収める能力の不足を露呈したと言った方が正解。**そして、**山東の力不足を的確につく鶴南新人チーム、やはり力がある。**初先発の1年右SBワタコーはやはり緊張気味。これは仕方がない。しかし、持ち味のスピードあふれる駆け上がりが見られないため、左SBとともにボールロストだけが目立ってしまう。しかし何とか持ちこたえていると、徐々に山東も盛り返す。通常CDFで出場する2年タツルを今回ボランチに置き、3年クリロンをサイドに回し、攻撃的布陣を組んだつもりだが、それが徐々に機能し出したか。また、先週に引き続き、(できるときには)低い位置からビルドアップを恐れずプレーする山東。その形から、長短織り交ぜたパスがボランチから配球され出し山東の流れを感じさせた前半中盤、**1年右MFのサンペーから矢のようなクロスボールがゴール前に送られ、そのボールを逆サイドから駆け上がった左MFのクリロンが前方にポジションを取る相手GKの裏を突くヘディング・ルーフシュートを放ち、ネットを揺らすことに成功。山東先制!** ワールドカップのオランダ対スペインにおけるファン・ペルシーのダイビング・ヘディング・ルーフシュートとまでは行きませんが(そもそもクリロンのはダイビングではないし)、鮮やかなヘディング・ルーフにそれを思い浮かべてしまいました。その後は一進一退で、相手ゴール前に深く侵入する決定機を作れずに**枠に飛ばないミドルシュートに頼った攻撃**をしていると、山東CKから発展した鶴南の速く正確な逆襲が山東ゴールを襲い、その逆襲も**フィニッシュまで素晴らしいコントロール・シュート**で締めくくられ、同点とされる。前半44分の同点劇。CKからの逆襲でピンチを迎えるのはMリーグ山本戦で経験済みですが、その時同様、**スタート時の自分のポジションに縛られ、ダッシュでの戻りをする判断を欠いた選手がいたためではないのか³**。1対1で折り返す。

前半向かい風で山東の攻撃に加速力が伴わなかったものですから、「追い風の後半は行けるのでは」と期待して後半キックオフを迎えると、技術のあるチームには風は関係ないんですね・・・後半2分にショートカウンターからこれまた**とても良くコントロールされた見事なミドルシュート**を決められ、1対2のビハインド。**鶴南の崩し、フィニッシュともに、褒めるしかない。**相対した山東CDFは試合後、「あそこからは決まらないと思って距離を詰めなかったのですが」と脱帽しておりました。GKサブローはシュートストップの安定感はずっと齋藤GKコーチをして「オオノよりうまい」と言わしめておりましたが、この日もそれを裏付ける好プレーをしており、ミドルシュートによる失点もGKのせいではない。ただ、やはり追い風が関係したか、前半よりもドリブル、ショートパス、ロングパスの判断が良くうまく攻めているので(追い風に乗ったロングパスがあるので鶴南が引き気味になり、ショートパス、ドリブルが有効になったので)、得点を期待して戦況を眺めていると、やはりと言うべきか、**2年FWムンタリがロングパスから抜け出し、GKと1対1、冷静に決め、後半9分に同点。**その後、3年FWレスラー⁴と1年DFシュンを投入し逆転をうか

³ CKにおいて味方ゴールに近い位置(ゴール前に詰めない位置)にいたにもかかわらず、「自分はFW/MFだから(DFではないから)、頑張っただけで戻らなくてもよい」と決めつけ、数的不利になりそうな状況を見逃す選手がいたのではないかと。そうでなければ、CKの逆襲で簡単に数的同数や数的不利にはなりません。

⁴ ケツツンの由来に触れましたので、レスラーの由来も。彼はいまま見た目ズングリしていますが、入

がうと、その**レスラーの好パスを受けたムンタリがまたしても決め、山東逆転に成功！！** それにしてもムンタリの決定力には瞠目させられます。ベンチでは、「ムンタリが2年生で良かった～（もう一年あるから）」と話になりました。決して技術は高くなく、トラップ・パス・ドリブルともに基礎技術にはまだまだまだまだ改善の余地があるのですが、スピードとゴール前の勝負強さには感心させられる。さすが「(ジュニアユース世代でわざと選手を伸ばしきらずに) 高校での伸び代を作る本物の育成をしている」と、ごく一部の指導者の間で評価の高いア○キーFC（または○ズキ FC）出身だけある。さて、安心した勝利のためには、できれば二点差が欲しい。ムンタリ、チャラミ、レスラー、サンペーのあだ名カルテットとボランチタツルが惜しいシュートを放つなど、山東ペースの時間が続く。しかし、こうして試合後冷静に考えてみれば、ベンチまで「欲たがって」追加点を取ることもばかり狙ってしまったことが悔やまれ。タツルをいつものCDFに下げ、クリロンをボランチに戻すなど、より守備的に行って、「悪くてもそのまま試合終了」を狙うべきだったとの反省が……。後半35分、**相手選手のファールを要求し山東の選手の足が止まった**隙に、鶴南の見事なスルーパスが決まる。サブローが果敢に飛び出すも、相手が速かったのと、サブローの足が残念ながら遅かったのと、芝でボールの勢いが止まったのとで、鶴南の選手が先にボールを確保し GK を交わし、ゴール前に折り返したボールを詰めた選手に冷静に決められ、同点シュートとなる。3対3。齋藤 GK コーチによれば、試合前に「飛び出しすぎて失敗するような**積極的なミス**なら構わないから、どんどん行け」とサブローに伝えていたようですので、その通りの積極的なプレーであり、サブローにとって経験値が高まるプレーとなりました。思い起こせばケツツンも1年時は無謀な飛び出しが多かったが、その失敗の経験が生き、2年時から無謀な飛び出しが激減いたしました。**失敗にも明日につながる失敗とそうならない失敗があるものです**。今後のサブローに期待したい。それよりも、**ファールの要求で一瞬でも足が止まったことの方が、問題**。そういうメンタルとかかわる部分で未熟さを出してはダメ。最近ベンチでも審判へのファールの要求が多かったことを反省させられました。さあ、のこり10分、3年FWエイジを投入し、勝ち点3を狙いに行く山東。DFラインぎりぎりを飛び出してのエイジの惜しいシュートがありましたが、結局そのままタイムアップ。

両チームともに、「勝ちを逃した」という反省が残る試合。その試合勝てばY2B前期優勝が決まったはずの山東としては、惜しいドローではありましたが、鶴南新人チームの落ち着いた対人プレー、ゴールを陥れるアイデア、ともに素晴らしかった。「先輩」としての格の違いを見せたかったのですがね～。後期の新チーム対決が楽しみです。

遠くまで応援ありがとうございました。**次戦は、いよいよ3年生の最終戦、Y2B前期最終戦（第7節）となります**。相手は、県総体3位の山形商業。応援よろしくお願い致します。

7月5日（土） Y2B 第7節 山形商業戦 10:00～ @山形明正 G

部当初かなりズングリしており、サッカー選手というよりレスラー体型だったものですから、当時の顧問がそう名付けました。罪ですね、当時の顧問は。一体誰でしょう（私）。ちなみにこのあだ名も、使用しているのは、私と齋藤 GK コーチと後藤報道局長しかおりません。ですが、村山地区顧問の一部には結構な反響のあったあだ名です。ムンタリなどの2年生のあだ名は、今後も紹介する機会があると思いますので、またの機会に譲ります。